

## 財 政 上 の 効 果

ここでは広域化により、高機能消防指令センターや特殊車両等の整備をはじめ、国からの財政支援の活用など、財政上の効果を紹介します。

### (1) 特殊資機材等の効率的な整備

特殊資器材や高度な設備の整備は大きな財政負担が伴いますが、広域化することで両市での重複投資を避けることができ、効率的な整備が可能となりました。両市が単独で整備した場合と比較して、大東市で176,050千円、四條畷市で259,410千円を軽減することができました。

◎特殊資機材等の効率的な整備 (千円)

年度	名称	大東市(単独) 整備費	四條畷市(単独) 整備費	大東四條畷消防組合 整備費
25	通信指令施設(単独整備) 高機能消防指令センター	200,000		204,540
26	消防救急デジタル無線設備(単独整備) 消防救急デジタル無線設備	270,000	320,000	345,600
27				
28	はしご付消防自動車	190,000		194,400
29				
30	通信指令施設(単独整備)		200,000	
	合 計	660,000	520,000	744,540

組合負担金割合による両市の実質整備額

483,950      260,590 (千円)

大東市

四條畷市

単独事業費との比較(広域化後5年間)

△176,050      △259,410 (千円)



《高機能消防指令センター》

◎ 高機能消防指令センターや消防救急デジタル無線の重複整備を避けることができ、それぞれの市が単独で事業を実施した場合と比較して、大幅な経費削減となりました。

◎ はしご付消防自動車や化学消防自動車等の特殊車両を、両市共同で整備することにより、少ない費用負担で効果的な運用を確保できます。